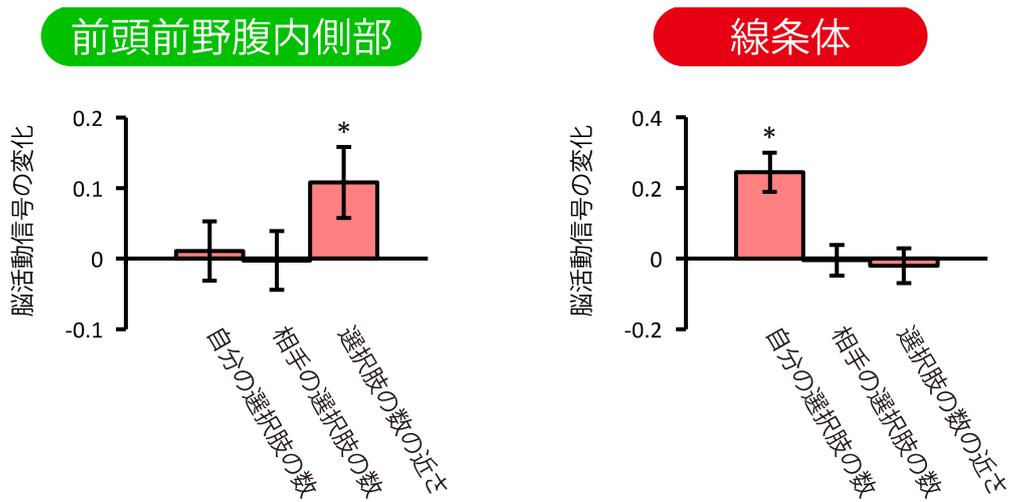


<図3> 「選択の機会の平等」に対する脳の反応



金銭的報酬に対して反応することが確認された脳領域のうち、前頭前野腹内側部は自分と相手の選択肢の数が平等に近いほど高い活動を示した。対照的に、線条体は自分の選択肢の数が多いほど高い活動を示し、選択肢の数の平等性とは無関係であった。誤差線は標準誤差を、*は統計的に有意 ($p < 0.05$) な変化をあらわしている。